

平成17年度福井県経済社会活性化戦略会議第1回会議概要

《日 時》	平成17年6月10日（金）	14：30～17：00
《会 場》	福井県庁7階	特別会議室
《出席者》	天谷 祥子	学校法人天谷学園理事長
	稲山 幹夫	稲山織物㈱代表取締役社長
	加藤 秀雄	福井県立大学経済学部教授
	新町 光示	㈱ジャルパック代表取締役会長
	馬場 修一	日本労働組合総連合会福井県連合会長
	三田村俊文	㈱福邦銀行取締役頭取
	三屋 裕子	㈱シャルレ代表取締役社長
	山本 雅俊	福井県副知事
	吉野 浩行	本田技研工業㈱取締役相談役
	吉村 豊子	㈱吉村甘露堂取締役相談役
《欠席者》	有馬 義一	敦賀海陸運輸㈱取締役社長
	堀田 健介	モルガン・スタンレー・ジャパン・リミテッド会長
	八木誠一郎	フクビ化学工業㈱代表取締役社長

《会議概要》

〔事務局〕時間もまいりましたので、ただ今から第1回目の「平成17年度福井県経済社会活性化戦略会議」を開催させていただきます。本日は、たいへんお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。まず、開会に当たりまして山本副知事からごあいさつ申し上げます。

〔山本副知事〕一言ごあいさつ申し上げます。多くの委員の皆様につきましては、昨年度に引き続き委員をお願いしたところであり、本年度もよろしくお願い申し上げます。また、三屋さんには、新たに委員に就任いただきありがとうございました。

今までの経過を申し上げますと、15年度に西川知事が就任してから、活性化戦略会議を置いたわけですが、会議では本県の社会経済の活性化策についてご提言をいただき、県で「挑戦（チャレンジ）ふくい」を策定しました。

16年度は、三田村委員に議長になっていただき、どのようにプランをうまくやっていくかご意見をいただいたわけですが、特に、産力に中心をおいた産力戦略本部を置き、本県の産業をどうしていくかというところを議論をしました。その結果の1つが、産業クラスターづくりです。例えば、先端マテリアルの加工技術ですとか、チタンマグネシウムの加工技術ですとか、いろいろな技術があるわけですが、これらを根幹として5つの産業クラスターをつくっていかうというものです。すでに繊維と眼鏡は技術としても確立しており、こういったものは1つの大きなクラスターとしてこれからも育てていくつもりですが、将来に向かって、次世代の食品クラスター、ニューセレクトプロダクトクラスターなどをつくらうというものもごございます。また知的財産などについても、ご議論いただきました。

さらに本県は、農業についても大きなウエイトを占めておりますので、農林水産物について別個委員会をつくって検討し、その内容を当会議に諮らせていただきました。

17年度は、この2年間で福井の経済も変化しておりますので、その変化に合わせた新しい提案もいただければと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

本日は、知事が不在で申し訳ございません。代理であいさつをさせていただきましたが、よろしくお願いします。

○委員等紹介

〔事務局〕 それでは、委員のご紹介をさせていただきます。

- ・ 福井県副知事の山本委員
- ・ 福井県立大学経済学部教授の加藤委員
- ・ 稲山織物株式会社代表取締役社長の稲山委員
- ・ 学校法人天谷学園理事長の天谷委員
- ・ 日本労働組合総連合会福井県連合会長の馬場委員
- ・ 株式会社福邦銀行取締役頭取の三田村委員
- ・ 株式会社ジャルパック代表取締役会長の新町委員
- ・ 本田技研工業株式会社取締役相談役の吉野委員
- ・ 株式会社シャルレ代表取締役社長の三屋委員
- ・ 株式会社吉村甘露堂取締役相談役の吉村委員

なお、本日は、

- ・ 敦賀海陸運輸株式会社代表取締役社長の有馬委員
- ・ モルガンスタンレージャパンリミテッド会長の堀田委員
- ・ フクビ化学工業株式会社代表取締役社長の八木委員

は、都合によりご欠席となっておりますので、よろしくお願いします。

続きまして、事務局を紹介いたします。

- ・ 総合政策部長の品谷
- ・ 産業労働部長の藤原
- ・ 農林推進部長の川口
- ・ 総合政策部企画幹の吉田

でございます。

○議長、副議長の選出

〔事務局〕 それでは、議題に入ります前に、当戦略会議の議長ならびに副議長を選出させていただきますと思います。開催要領第5条によりますと、議長は会務を総理し、戦略会議を代表することとしております。また、副議長は、議長を補佐することとなっております。議長は委員の互選により選出することとなっておりますので、よろしくお願いします。どなたかご推薦はありませんでしょうか。

〔委員〕 昨年度も当戦略会議の議長として意見の集約、とりまとめにご尽力いただいた三田村委員を推挙します。

〔各委員〕 異議なし。

〔事務局〕 それではほかにご推薦はないようですので、三田村委員に議長をお願いしたいと思います。一言、議長就任のごあいさつをいただければと思います。

〔議長〕 本年度も議長の大役を仰せつかりました。本年度もよろしくお願いします。ほとんどの委員が昨年に引き続きということになりますが、よろしくお願いします。また、本年度は三屋委員に新しく参加をしていただきました。たいへん心強く思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

西川知事のおかれましては、ご存知のように「挑戦（チャレンジ）ふくい」に基づき、元氣な福井の実現のために日夜ご努力をいただいているところですが、今日の新聞で県民のアンケートの結果が出ており、県民は知事の活動についてかなり評価しております。しかし、その施策の精度が問われるのは、私はこれからだと思います。我々は県の施策が効果的に実施されているかどうか、また、もっといい方法が考えられるのではないか、といったようなことをこの会議を通じて意見を申し上げ、提言していければと思っておりますので、皆様方のご協力をよろしくお願いします。

〔事務局〕ありがとうございます。続きまして、副議長の選出を行いたいと思います。副議長は議長が指名することとなっておりますので、議長にどなたか指名をお願いしたいと思います。

〔議長〕指名権をいただきましたので、山本委員を指名させていただきます。

〔各委員〕異議なし。

〔事務局〕それでは、以後の議事進行は議長にお渡ししたいと思います。三田村議長お願いします。

○各委員の自己紹介

〔議長〕では、議事に入ります前に、各委員から簡単に自己紹介、抱負などをお伺いしたいと思います。では、着席順をお願いします。

〔委員〕引き続き委員ということで新鮮味がございませんが、よろしくお願い申し上げます。先ほどはじめて新しい福井駅に降り立ちましたが、松平25万石の城下町に新しい駅ができ、新しい福井が始まったという感じがしています。私の出身は航空業界、旅行業界ですので、観光振興のために何かお役に立てればと思っておりますので、よろしくお願いします。福井は工業、商業、農業といった多面的な産業基盤がありますので、観光のシナジー効果といいますか、観光を通じて県のいろんなことを知っていただくことが重要だと考えております。今、全国津々浦々、観光立県ということであらゆる取組みをやっているところですが、福井県の場合も他県に負けないような観光面での広報、企画を行っていく必要があると感じています。微力ではありますがよろしくお願いします。

〔委員〕私は40年以上、ものづくりのビジネスをやってきました。今は日常の経営にはタッチしてないわけですが、政府の総合科学技術会議の非常勤委員などをやっております、日本の科学技術の司令塔の役割を担えということで、月に1回、小泉総理および関係閣僚と会議を持っています。福井はものづくり、産学官連携、人材育成、知的財産の分野でもっと頑張っていかなければならないと思います。そういう分野でお役に立てればと思っておりますので、よろしくお願いします。

〔委員〕今年から加わらせていただきました。メイド・イン・フクイの一人として、この福井の活性化に微力ながら何らかのお役に立てればと思っておりますので、よろしくお願いします。私は長年スポーツ界、教育界に、今は経済界におりまして、いろいろ勉強することも多いわけですが、たまたま今いる業界は繊維業界ということもあって、何等かの形でこれからシナジーが生み出せればと思います。私がこれまでいろいろ仕事をしてきた中で、やはり行きつくところは人づくりです。そういったことを思いながら今、会社経営をやっていますが、この会議の中でもそのような視点でお役に立てればと思っていますので、よろしくお願いします。

〔委員〕私は職業として菓子屋をやっておりますので、農林水産業の分野で何かお役に立てれば

と考えております。また、この3月までは商工会議所の女性会の会長をやらせていただいていた。その中で食育の問題などを考えてきましたが、女性ができることをこの席で提起できればと思っておりますので、よろしくお願いします。

〔委員〕今年も三田村議長を精一杯サポートしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。昨年度、産業クラスターの絵を描いたのですが、これがどれくらい県に貢献するのか検証されていません。この点でもいろいろご意見をいただきながら精度を高めていく必要があると思っておりますので、よろしくお願いします。

〔委員〕私は昨日、一昨日と大阪の企業を回っていました。現在、我々が常識としていた企業の動きとは違う動きが、日本のあちらこちらで生まれてきています。これまでは地方圏でものづくりをしている企業が多かったわけですが、東京のある企業は、都内に最新鋭の設備を持ち、ものづくりをしている。私は全国各地で揺れ動いているものづくりの現場を探りながら、これから日本の将来を考えていきたいと思っております。そのような現場を見る立場から、福井のものづくりをどのように考えればいいのかを、中小企業の立場からものをみて発言していきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

〔委員〕福井県の地場産業といえば、眼鏡と並んで繊維ということになりますが、もともとは企業数2000社、3000社もあり労働人口も非常に多かったわけですが、中国をはじめとするアジアの台頭などで日本の繊維産業がどんどん空洞化し、非常にさびしい状況になってきています。もう1つは帝人や東レなど大企業の委託加工、賃織というスタイルをずっと続けてくる中でものづくりをしてきたのですが、販売・企画の力がつかない大きな要因にもなっています。現在、企業数も500社を切っています。経済学の先生の中には、繊維産業は衰退期の産業だとおっしゃられる方もおります。しかし、考えてみると中国でものはつくっていますが、企画、開発は我々日本にいる会社が行っており、これからもこの部分は絶対放してはいけないと考えています。繊維の代表として参加させていただいていますが、業界の外側から皆さんのご意見もいただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

〔委員〕福井ブランド大使発足から1年が経ち、数も1200名を超えたとお聞きしていますが、今が一番大事な時期ではないかと私は思います。県民が県のブランド大使として誇りを持って、自信に満ちていると思います。希望に満ち溢れていることは、愛県心につながります。それは福井を愛することを思い続けることで、これからはそのような思いを表現していくきっかけづくりをしていただきたいと思います。そうすることで発信力のあるすばらしい県になると思います。

〔委員〕私自身、県外で生活を営んだことがございません。出張で県外に出向く機会は非常に多いのですが、そのときはその地のいい所しか見てきません。生活をしている地については、どうしても悪いところしか目に付きません。福井にもすばらしいところがあるというのを、昨年1年間、この会議を通じて再認識しました。また昨年、福井に大水害が発生しました。その後のまちづくりが福井にとっては大きな課題でもあります。そういう意味で、この会議で大きなところでの議論が進んでいると思いますが、個々の人間性の中で福井の地に生まれて、生活する地域がどうかを考える必要があると思います。また、勤労者の立場から福井の活性化にどのように結び付けていくかを、できるだけこの会議の中で発言していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○本年度会議の役割、位置づけ

〔議長〕 それでは早速議事に入りたいと思いますが、冒頭でまず、平成17年度経済社会活性化戦略会議の役割、位置づけについて確認しておきたいと思いますので、事務局から説明をお願いします。

〔事務局〕 本年度の経済社会活性化戦略会議でご議論を願いたい事項は、主に2点ございます。

第1点目は「挑戦（チャレンジ）ふくい」の進捗状況のチェック、第2点目は「挑戦（チャレンジ）ふくい」策定後の経済社会情勢の変化等を踏まえて、今後の本県経済の活性化方策についてのご意見をいただき、施策へ反映していきたいと考えています。

本年度、西川知事の任期4年間の折り返し地点を迎え、現在、マニフェスト「福井元気宣言」に基づく取組みの実行状況について、中間的な評価作業を行っています。

その中で、県民2千人を対象にアンケート調査を実施し、これまで2年間の取組状況を示した上で、県民から評価をいただきました。その結果は昨日（6月9日）とりまとめ、公表したところです。

アンケート調査の結果をみますと、全体的に高い評価をいただいているものの、「福井元気宣言」に掲げる10の政策の中で、産業の活性化や雇用の促進など「経済対策の緊急発動」、子どもの教育の充実など「未来を託す人づくり」、福井が持つ良きもの優れたものを活かした地域づくりなど「夢あるふるさとづくり」に関する政策を優先して実行すべき、との声が非常に大きい結果となりました。

これら3つの政策については、県としても全力で取り組んでいるところですが、一朝一夕には成果に結びつけることは難しく、県民が実感できるレベルにまでは達していないというのが現状です。

また、平成15年度の戦略会議において、本県経済社会の活性化方策をご議論いただき、ご提言いただいた内容を踏まえ、県で「挑戦（チャレンジ）ふくい」を策定しましたが、今日までの間、経済社会情勢も変化してきています。

そこで、変化が著しい経済社会情勢の実態に合わせて、あるいは今後目指すべき経済社会の実現に向けて、足りない点を補いながら、県の取組みをさらに進化させていく必要があります。本年度は、今回を含めて4、5回程度会議を開催させていただく予定の中で、できるだけ現在の課題など論点（テーマ）を絞り込んだ形で集中的にご議論いただきたいと考えています。

県では、いただいたご意見をもとに、実行可能なものからすぐにでも施策に反映、実行していきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

〔議長〕 ありがとうございました。事務局から説明いただきましたように、我々に与えられた課題は、まずは「挑戦（チャレンジ）ふくい」の進捗状況のチェック、第2点目は平成15年度の「挑戦（チャレンジ）ふくい」策定後の経済社会情勢の変化等を踏まえて、意見を求められているということですので、よろしくお願いします。

○「挑戦（チャレンジ）ふくい」の実施状況

〔議長〕 では、本年度の戦略会議の役割について委員各位には共通認識を持っていただけたと思いますので、早速、本日の議題に入りたいと思います。本日の議題は、

- （1）「挑戦（チャレンジ）ふくい」の実施状況
- （2）最先端技術のメッカづくり
- （3）ふくい野菜のブランド化

です。まず、平成15年度、当戦略会議の提言を受けて県が策定した「挑戦（チャレンジ）ふくいー福井県経済社会活性化戦略プランー」のこの2年間の実施状況について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局〕 資料1、資料2に基づいて説明

〔議長〕 ただいまの説明を受けて、各委員からご質問等を含め、自由に発言をお願いします。

〔委員〕 企業誘致について、全国的にも16年度に入ってこれまでとは様子が違ってきて、動き出し始めていますが、県の誘致件数を見るとそれ以上の成果が現れていると感じます。この辺の積極的な動きというか、どのようなことをおやりになったのか伺いたい。15年度に国において工業団地が売れ残っているのをどうするか検討する会議があり、私はその座長をやりました。そこでの議論の中では、工業団地を他の用途に使えるようにできないかといったような意見も出ていましたが、未来の人たちに残せる団地をつぶしてしまっていないのか、一貫性がないのではということなのでこの案は盛り込まなかった経緯があります。

〔事務局〕 まずは、訪問する企業の目標数を年間200社と決めて動いています。できれば製造業を考えていましたが、経済情勢が厳しい中で製造業だけでは難しい面もあり、コールセンターなどの誘致にも幅を広げながら取り組んできました。その結果、15年度に14社、16年度に14社の計28社の誘致が実現しました。昨年から今年にかけて、各企業の投資意欲も出てきており、今年度から来年度にかけては、健康長寿など将来の福井県の産業のためになるような企業にターゲットを絞って、企業誘致を進めていきたいと考えています。

〔委員〕 これまでは企業は自ら立地の地域を線引きし、イメージをもとに立地してきましたが、尼崎にプラズマ工場をおく企業が出てくるなど、従来にはなかった立地が出てきています。そういう意味では、ターゲットとする企業をあまり決めつけないことが大事で、自ら壁をつくってはいけないと思います。

〔委員〕 健康長寿の要因はどこにあるのですか。

〔委員〕 福井県の農業は兼業農家が中心です。退職した人たちの第2の働く場所になっています。そういう意味で、働く意欲、健康の源となっているのではないかと。沖縄は、働く場所も少ないし、賃金も安い、昔から長寿です。それはなぜか分析を進める必要があると思います。

〔事務局〕 本県では、「なぜか長寿」から「だから長寿」へと展開をしていこうとしているところであり、平均寿命につきましては、男女とも全国第2位で、それを捉えて私どもは全国1位の長寿県と言っています。その要因につきましては、福井の食生活が長寿の源ではないかという分析をしています。米を中心としたバランスのよい食生活をこの20年間維持してきたことです。また、脂肪の摂取量と質が良かったということもあります。カリウムの摂取量が多く、塩分の摂取量が少ないことなどや、共働き率の高さ、ボランティア参加率の高さなども要因の1つとして考えられています。

〔委員〕 今トレンドとしては、平均寿命よりも健康寿命が着目されています。医療費の増大によって財政が圧迫されていますので、予防医学の重要性が指摘されています。平均寿命と健康寿命の差は、一般的に8歳程度開きがあったと記憶しています。しかし、健康寿命の算定方法に決まったものがなくそれぞれに算出していると思いますが、平均寿命を売りにするよりも、私は健康寿命を売りにしていった方がいいと思います。平均寿命、すなわちどれだけ長く生きるかというのは20世紀型の考え方で、これからは医学の発達で誰でもが長生きできる時代になるので、どう生きたかというのがこれから21世紀型の人間の生き方になっていくからです。その時に医療費とのバランス、高齢者の医療費が他の地域よりも高ければ、それは人工的な長寿であって、一方、ずっと少なければ、それは食や環境の面が大きいといえ

るのではないのでしょうか。

〔事務局〕健康寿命につきましては、算定の基礎が国のほうで決まったものがなく、各県ばらばらでやっている状態で、健康寿命の算定方法について一律的なものを確立するよう国のほうに要望していきたいと考えています。そのような中で、県では「ふくい健康長寿の謎解き」という形で示しています。

〔委員〕いろいろ健康長寿の分析結果を示していただいているが、県内向けと県外向けでは分けたほうがいいのではないかと。目的が違うと思います。福井県を売り出すのに、長寿というのがありますが、科学的な裏づけないと曖昧になるという議論がかつてあったと記憶していますが、「健康長寿な福井県です」といった場合、県民にとってみればありがたい、非常にいい県だということでPRになりますが、本来の目的はそうではなくて、県外の人に福井をPRするのに果たして効果的かどうか。コンセプトが曖昧になってくるのではないのでしょうか。県外の人にPRすることを主眼におけば、今後、編集の仕方も変わってくるのではないのでしょうか。

〔委員〕そもそも福井というのはよくわからないというところからのスタートでした。そこで、健康長寿というのを福井県のブランドのイメージとして位置づけてきたという経緯があります。今後の展開については、委員のおっしゃる点も踏まえて検討していかなければいけないと思っています。

〔委員〕ブランドについて、福井県は認知度47位ということで非常に重要なことだとは思いますが、ブランディングするときには、福井のいいところ、悪いところをすみ分ける必要があるのではないかと。P6をみていると、あれもこれも取り組んでいるようでわからなくなってくる点が多いと感じます。健康長寿というブランドイメージでいくのであれば、福井ブランド創造活動推進事業で三国湊を支援するのとかというのがわからなくなります。打ち出し方を間違えると、まったくわけのわからないものとなる危険性があり、結果、「やっぱりわからない福井県」になってしまうのでは。トータルマネジメントがまだできていないという気がします。

〔委員〕福井ブランドで福井を認知してもらおうということですが、福井がどのように浸透しているかをどういう方法で把握しているのでしょうか。

〔事務局〕北陸イメージアップ推進会議で首都圏、中部圏、関西圏において、定期的にアンケート調査を実施しています。その中で「健康長寿福井」を認識しているかという問いに対して、初年度は4.3%の方が知っているという結果が出ました。今後、これをどう高めていくかということで、イメージアップの問題を整理していきたいと考えています。

〔委員〕沖縄でいうと健康食材として注目されているゴーヤのようなものが、福井では量産できないというのも問題ですね。何か1つでも健康長寿に結び付けてアピールできるものがあるといいのですが。食品会社の加ト吉を福井につれてきても、なかなか商売にはならないとおっしゃっていました。

〔委員〕1つ難しいのが、北陸三県はどこも環境が非常に似通っている点ではないのでしょうか。その中で、福井のオリジナリティを出していくのは難しいと思います。

〔委員〕北陸三県が横並びなら、石川県になぜ人が集まり、人が行くかということになります。単なる長寿だけでダメなのではないのでしょうか。その背景にある定年まで働く場があって、その後も豊かな生活が送れるといったことも絡めながら、アピールしていく必要があるのではないのでしょうか。

〔委員〕子供にも手をつけないといけないと思います。子どもに、どれだけ福井県自慢ができま

すか、といったものをやっていかないと、テレビの向こう側の東京や都会に目を向けている間は、福井県のブランドワークなんかはできないと思います。なぜ石川はあれほど活性化しているのかといえば、たとえば金沢から出たくないと思っている人が多いのかもしれない。地元で貢献しようと思っている子どもがどれだけいるかが重要ではないでしょうか。そういった意味で、短期的にやるものと、長期的にやるものの両方が必要なのではと思います。ブランドは、究極は人が発信するわけですから、小学校の教育の中に入れていかないとブランド力のアップにはならないと思います。

○論点整理

〔議長〕皆様から、いろいろご意見をいただいておりますが、先ほど事務局から説明があったように、今後、当戦略会議としてはテーマを絞り込んだ形で集中的にご議論いただく必要があると思います。いみじくも、今1つ出てきたと思いますが、本県経済社会の活性化のために、本年度特に議論すべき事項について、この場でご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔委員〕先ほどのご報告を聞くと、企業誘致、雇用創出、福井ブランドなど目に見える成果も出つつある良い面がある一方で、繊維など実態としてはそうじゃない面、悪い面もあります。今後はこのような良い面と悪い面を浮き彫りにし、対策を検討し、その実態に適応した突っ込んだ政策展開が必要なのではないかと思います。

〔委員〕事務局の報告を聞いていますと、「こういうことをやっています」というのが多いような気がします。中間だから仕方がないですが。むしろ深掘りしていくのはこれからで、結果「どうなったのか」というのがもう少しほしいと思います。また、これからは一段とスピードを上げるべきではないでしょうか。

〔委員〕ものづくりの立場から申し上げますと、次の最先端技術のメッカづくりとも関連しますが、産学官連携や企業立地等いろいろな面で課題がありますが、最先端のものばかり追いつめるのではなく、最先端ではない部分にも目をやる必要があると考えますが、次の議題の説明をお聞きしてから私の意見を申し上げたいと思います。

〔議長〕それでは、時間も限られておりますので、事務局から次の議題についてご説明をいただいた後、引き続いて論点についてのご意見をいただきたいと思います。ひとまず、議題1については、この辺で終わらせていただきます。

○最先端技術のメッカづくり

〔議長〕それでは、議題2の「最先端技術のメッカづくり」について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局〕資料3に基づいて説明

〔議長〕ただいま、事務局から「最先端技術のメッカづくり」を目指した取組みに関する説明がありましたが、本県の技術を、どのように世界に向けて発信していくのかという点、あるいは、産学官共同研究に参加する企業をいかに拡大していくのかという点などについて、皆様の豊富な経験からご自由にご意見をいただきたいと思います。

〔委員〕このようなメッカづくりについて、1つのストーリーを描きながら将来のあり方を考えるのは重要であり、異論があるというわけではないのですが、福井のものづくりの将来を考えていく場合に、この図式というのは、私には1つのモデルでしかないと思います。実際のものづくりの現場では、多様なものが展開していることから、どうモデル事業と連携させて

いくつかが大事になってくると考えます。少なくとも、ここに挙がっているのは誰もが福井にあるということを知っているものばかりで、ターゲットとは必ずしも一致しなくなってくる、つまり、福井県では開発のターゲットをニッチにしているが、必ずしもニッチばかりではないのではないかと考えます。無理やりくっつけているような気がしてならない。それ以外のものもたくさんあるといったことをわかった上で、最先端技術のメッカづくりに取り組んでいただきたいと思います。

また、メッカづくりの中で、産学官連携を非常に大きく扱っています。産学官連携では、実際の研究開発の場面では非常に狭い範囲を要求してくる。福井だけにこだわらない、全国に目を向けて、広域的な見方で全国のすべての研究者をリストアップする力を持って、マッチングさせるようなことを次の段階ではするんだということを、今の段階からしておかないと、限られた可能性で終わってしまうのではないかと思います。

〔議長〕メッカづくりというからには、福井県には世界に誇れるような技術というものが、実際のところあるのでしょうか。私は原子力の研究、そういうものから出てくるような技術は、福井県にとって今後世界に誇れるようなものになり得るのではないかと思います。大学などでは、世界から人が集まり、勉強して、帰っていくような交流を生み出すことも可能なのではないのでしょうか。

〔委員〕自動車などのように、様々な技術が注ぎ込まれる核となるものがあれば、地域の中で技術が高度化することは可能ですが、原子力というのはあまりにもクローズされた技術で、また世界レベルの技術が必要な分野で、実は地域化するのが極めて難しいものでもあるということ踏まえた上で、どう地域化するかを考えていく必要があるのではないのでしょうか。

〔事務局〕県内の繊維産業の中にも確固とした技術を持ち、元気な企業もございますし、眼鏡産業の中にも独自の加工技術を持つ企業も多いと考えています。繊維機械についても同様です。今後は、これらの技術を活かしていく、活かせる場所を見つけていくことではないかと考えています。

〔委員〕「最先端技術のメッカづくり」の構想はわかります。県内の既存産業に配慮していることもわかります。現在、繊維産業の中でも自動車のエアバック、携帯電話の基布などを生産している企業は好調で元気があります。今後は、メッカづくりともう1つ、用途開発が必要だと思います。

〔委員〕原子力はよくわかりませんが、他は競争激烈な分野で、これから新たにやるには非常にきついと思います。全国でどんどんやっているわけですから。ある意味では流行ものなんですよね。よほど状況を的確に把握していかないと成果に結びつけるのは難しいのではないのでしょうか。

〔委員〕この前、日本経済新聞に福井で開発した「濡れない傘」が紹介されていた。1本3万円もするのですが、結構売れていると聞いています。今から1からはじめるのは至難の業で、このように福井の独自の繊維技術を活かして完全商品を生み出すなど、既存のものづくり技術の基盤として、エネルギーを集中的に特化していくのがいいのではないかと思います。

〔委員〕これまでの議論は長かったのですが、自動車産業なり電気産業なり、福井にはとにかくアッセンブル産業がないんですよね。繊維でも、その1部を担当しており、それぞれの企業はそれほど規模が大きいのですが、いろいろな機能を果たしているわけです。我々の考えるクラスターのイメージはそういうものです。ある部分、部分のところではいろんなことができるわけで、それをいかに集めるかということで福井の産業クラスターというののできてこないかというのが戦略です。そういう面で、今ある技術をどれがいいかということで伸

ばしていくのがこれからの課題です。

〔議長〕では、議題2については終了します。

○ふくい野菜のブランド化

〔議長〕続きまして、議題3の「ふくい野菜のブランド化」について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局〕資料4に基づき説明

〔議長〕何か、ご意見はございますか。

〔委員〕特産品にステッカーはつけているのでしょうか。健康長寿などとも絡めて、目立つものをつくっていただいたほうがいいのではないのでしょうか。福井県のものには何にでも貼ってほしいと思います。

〔事務局〕いろいろレベルはございますが、あります。

〔議長〕お時間もきたようでございますので、これらのご意見等を踏まえて、論点の整理を行いたいと思います。取りまとめについては私にご一任いただき、論点を整理した上で皆様のごところにお送りしたいと思います。よろしいでしょうか。

〔各委員〕異議なし。

〔議長〕皆様のご了解をいただきましたので、私の方で次回までに論点を整理し、ご連絡したいと存じます。次回以降は、この論点に沿って集中的に議論していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

では、本日の議題および意見交換についてはすべて終了させていただき、進行を事務局にお返しします。

○閉会

〔事務局〕貴重なご意見をありがとうございました。本日いただいたご意見につきましては、今後、可能な限り県政運営に反映させていきたいと考えています。

また、本日の発言内容につきましては、事務局で整理したものを県のホームページに掲載したいと考えておりますので、あらかじめご了承くださいと存じます。

なお、今後のスケジュールについては、冒頭、総合政策部長からご説明申し上げましたように、今年度は今回を含めまして年4、5回程度の開催を予定しておりますので、よろしくお願い申し上げます。次回は、8月頃に開催ができればと考えております。

なお、毎回のテーマでございますが、今回の議論をもとに、議長と私どもの方で整理させていただき、それを一度お送りし、ご意見を頂戴したいと思います。次回以降は、毎回テーマを絞って集中的にご議論いただきたいと思いますと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、第1回会議はこれで閉会とさせていただきます。本日は、お忙しい中、どうもありがとうございました。

以 上